

やなせかずき
梁瀬一紀さん、JICA 隊員で海外へ

9月22日、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊として2年間、西インド諸島のセントルシアへ派遣されるのを前に、市出身の梁瀬一紀さんが、市長を訪問しました。「視覚障がい者がより楽しく生活が送ることができるよう尽力したい」とあいさつしました。



今年も赤い羽根共同募金運動始まる

10月1日、赤い羽根共同募金厚生労働大臣メッセージの伝達式が行われました。市社会福祉協議会種子田與市会長が「住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、お互いを支え合う地域社会を築いていくことが重要」とメッセージを代読しました。



五輪コーチの右近プロがテニス教室

10月4日と5日、日本オリンピック委員会ナショナルコーチの右近憲三さんが指導する「ダンロップテニスクリニック（県テニス協会主催）」が、生駒高原レクリエーションセンターでありました。子どもから大人まで約60人が参加。右近さんの熱いコーチに汗を流しました。



河野知事と市長、幹部らが意見交換会

河野知事が市内の役所を訪れ、首長や自治体職員と意見交換を行う「役場でくまの談議」が10月6日、市役所で行われました。市からは肥後市長や部課長ら26人が参加。人口対策、防災、医療や農業など、市が抱える課題や将来像などについて活発な意見交換が行われました。



郷土が生んだ文学者しのぶ
須木で黒木清次文学碑祭

旧須木村出身の文学者黒木清次（1915～88年）さんの偉業をしのぶ「黒木清次文学碑祭」（市文化連盟主催）が9月27日、ままこ滝左岸にある文学碑前で開催されました。県内の文化人や関係者ら145人が出席。献花の後、黒木さんの詩を楽曲化した「朝の鶴」の合唱などが披露されました。



市内の小中学校を対象に募集した詩の中から、入賞作品4編、優秀作品10編が表彰。作品の発表と講評が行われました

小林市地域おこし協力隊
新たに1人が須木地区へ着任

地域活性化と自らの定住を目的にした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、京都府出身の勝本哲也さんを、市の5人目の協力隊員として委嘱しました。10月1日から、須木庁舎地域振興課に所属。勝本さんは「常に主体性を持って、新しいことに取り組んでいきたい」と意気込みを語りました。



市長から委嘱を受けた勝本さん。食品開発、営業に携わった経験や青年海外協力隊など海外で得た経験を生かして活動していきます



陰陽石に奉納される毎年恒例の伝統芸能「東方輪太鼓踊り」。東方中学校の生徒たちが見事に踊り上げて会場を沸かせました

よろず生産の神に豊穰祈願
陰陽石まつりで住民ら交流

9月23日、「こばやし陰陽石まつり」が陰陽石自然公園で開催されました。午前中は、陰陽石神社前で神事が行われた後、東方地区運動場などで弓道、綱引きやペタンクなどのスポーツ競技を実施。午後には野外ステージでスポーツ競技の表彰のほか、歌やダンス、舞踊などが披露されました。



テープカットの様子。竣工式には、知事、同社社員や畜産関係者ら約100人が参加し、その後、工場内の見学会も行われました

地元から30人の新規雇用
牛肉処理施設が完成

9月26日、サンキョーミート（株）の霧島ミート工場牛カット場の竣工式が行われました。新工場では、平成28年までに30人の新規雇用を予定。同社の楠本幸二代表取締役社長は「県内で生まれ育った牛を加工したオール宮崎の新しいブランドを全国に販売したい」と話していました。

体験をとおり先人の知恵学ぶ
二原遺跡でわくわく歴史体験

9月21日から23日に、「二原遺跡展～わくわく歴史体験～」がありました。普段は展示していない土器や貝のプレスレットなどの出土品の展示や火おこし体験などを実施。東方中2年の児玉愛さんは「火おこし体験は大変だったけど楽しかった。昔の人はすごいと思った」と話していました。



石を削って勾玉のアクセサリを作る参加者。3日間をとおり、延べ155人が訪れ、先人の知恵や文化を学びました

クリ拾いや物産展で秋を堪能
すきむらんどで栗まつり

9月28日、「すき栗まつり」が、すきむらんどと須木のクリ園で開催されました。クリ狩りでは、市内外から訪れた多くの家族連れが、生産農家4戸で収穫を体験。すきむらんどでは魚のつかみ捕り、クリを使ったゲーム、ステージイベントや物産展などがあり、多くの人で賑わいました。



多くの家族連れがクリ狩りを体験。スタッフにイガのむき方や美味しい実の見分け方などを聞きながら、思い思いに拾っていました

市役所に「ふるさと納税」チーム設置

市や特産品のPR、財源の確保など、さまざまな効果が期待される「ふるさと納税」。市ではこれに横断的に取り組むため、プロジェクトチームを10月7日に設置しました。チームには、8課9人が配属。調査研究を進めながら、ふるさと納税を推進していきます。



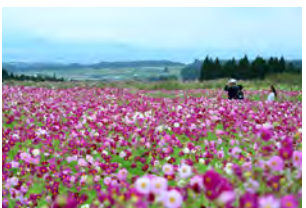
市内初「認知症カフェ」で家族ら交流

認知症の人やその家族らが交流する場「オレンジカフェ（認知症カフェ）」が10月12日、saboribar（細野）で開催されました。小林市包括支援センターが主催し、認知症の人を家族に持つ人やボランティアなど15人が参加。料理教室や茶話会で交流を深めました。



生駒高原「コスモスまつり」大盛況

9月20日～10月26日、生駒高原でコスモスまつりが開催されました。会場には屋台が並び、ライトアップされたコスモスや花火、2万5千個の灯籠が会場を彩る「ナイトコスモス」も開催。台風の影響が心配されたものの、今年も多く観光客が秋の生駒高原を訪れました。



孝ノ子地区の文化や自然を歩き巡る

10月18日、市ガイドボランティア協会主催の歴史ウォークラリーが孝ノ子地区周辺で行われました。約23人が、田の神像や隠れ念仏洞など6カ所を巡る約4キロのコースをボランティアガイドの説明を受けながら見学しました。



「地域から被害をなくそう」金融機関職員ら詐欺防止訓練

10月14日、「振り込み詐欺」など被害が増える特殊詐欺を防止しようと「特殊詐欺被害防止訓練」が小林郵便局で行われました。市内金融機関の職員ら50人が参加。小林警察署生活安全課の指導の下、模擬被害者に対しての声かけ、上司への報告や警察への通報などの訓練が行われました。



訓練の様子。小林郵便局高橋幹雄局長は「窓口が防止の要。この地域から被害者を出さない努力をしていきたい」と話していました

安心安全な地域を目指して西諸2市1町が合同で大会

10月15日、西諸地区の安全で住みよいまちづくりを推進する「平成26年交通安全・地域安全・暴力追放西諸大会」が文化会館で開催されました。西諸2市1町による合同開催は初めてで、約700人が参加。交通安全や防犯に功績のあった団体・個人の表彰、警察署による講話などがありました。



シニア代表として小林市区長倉田富夫会長、若者代表として小林市青年協議会の平原賢夫副会長が大会宣言を読み上げました



ボールを投げた的を通す競技「百発百中」で競う参加者。和やかな雰囲気の中でも、競技は真剣勝負。会場は大いに盛り上がりました

老人クラブ会員1100人参加 スポーツで交流を深める

10月7日、第42回こばやし友愛クラブスポーツ大会（市老人クラブ連合会主催）が総合運動公園陸上競技場で開催されました。市内のクラブ会員ら約1100人が参加。9地区団に分かれ、ゲートボール、お手玉入れやビン倒しなどの競技で交流を深めました。▼結果＝優勝橙団（須木地区団）



式典では、細野中押領司拓海さん（写真上部左）と紙屋小宇藤百桃さん（同右）が「平和への想い」の作文を朗読しました

遺族や関係者ら800人参列 忠霊塔で戦没者追悼式

10月10日、戦没者追悼式が忠霊塔前広場で行われました。塔には約1600人の戦没者が祭られており、式典には約800人が参列。遺族を代表して遺族協会の岡原信夫会長が「命をかけて戦い散った英霊を追悼し、戦後の発展を支えた先人へのご恩を忘れてはいけません」とあいさつしました。

野尻町福祉バスが須木地区へ新たに須木・内山線追加

野尻地区を巡回するコミュニティバス「野尻町福祉バス」に、新たに野尻と須木・内山をつなぐ内山線が追加され、10月3日、長谷原停留所で開通式が行われました。住民やバス関係者ら30人が参加。井上晃吉須木総合支所長が「念願のバス開通。地域の振興に期待します」とあいさつしました。



開通式で行われたテープカット。利用料金は1乗車300円で、10月から毎週金曜に上り下り1本ずつを運行しています

特産品ナシの出来を競う新興・新高の品評会

10月7日、西諸県農業改良普及センターで小林市果樹農業振興推進対策協議会とJAこばやし梨ぶどう生産部会の品評会が開かれました。

【以下結果・優等および金賞のみ・敬称略】
新興 協議会…小原修一/JA…永迫賢治
新高 協議会…前田博俊/JA…永迫賢治



同協議会の前田博俊会長は「今年も出来は上々。甘みの強い新高と酸味がほどよい新興をぜひ味わって欲しい」と話していました